

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077900159
法人名	医療法人 福田病院
事業所名	グループホーム とまと
所在地	福岡県三潁郡大木町大字大角 1 1 3 3 - 3 (電話) 0944-75-2345

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町 3 - 1 - 7
訪問調査日	20年 11月 20日
評価確定日	21年 1月 19日

【情報提供票より】 (平成20年11月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 18日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	17人
非常勤	0人
常勤換算	9.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造スレート 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福田病院・大石歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

穏やかな生活感がある家並みと田園に面している事業所は、隣接する関連法人運営の特別養護老人ホームを含め、明るく色鮮やかな外観が親しみやすい印象を受ける。広く開放感がある共用空間には、ソフトなソファを配置し居心地よく設え、壁面には、地域の文化祭に展示した利用者のちぎり絵があり、和みと心身機能への支援が伺える。常に、人権尊重を意図し利用者の「自己決定」を待つゆとりに取り組む職員は幅広い年齢層で構成され、目標・研修・向上の熱意を持ちケアに取り組み、利用者・家族から信頼を得ている。地元との日常的な交流等で信頼関係も構築されている。管理者・全職員は、地域福祉貢献に意欲的であり、頼もしい地域福祉の担い手として期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価で見出された課題は、運営推進会に報告し助言を貰い、全職員で意見・話し合い、改善シートを作成し具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で項目毎に意見を出し合い、確認し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し利用者やサービスの実態、外部評価を報告し、意見や助言を貰っている。地震・台風時につき話し合い、注意の助言を貰ったり、中学生の体験実習生増員への助言があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月1回の事業所便り、個別の新聞・手紙を手渡し、または郵送している。家族来訪時には一人ひとりの写真ファイルを見せ暮らしぶり・近況を報告し行事の案内をしている。家族会を開催し、意見箱を設置している。また、第三者相談窓口を家族に十分説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し地域の行事・祭り・掃除に参加し、事業所便りを配布している。町の文化祭に利用者のちぎり絵などを出展し、中学生の体験実習を受け入れ、来年度は高校生・短大生の実習を受け入れる。地元から野菜の差し入れがあり、挨拶を交わすなど、地元との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に、全職員で独自の理念を作成し、さらに、地域の中で地域と関わりながら生活を支えていく、地域密着型サービスの視点を盛り込んだ理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時や、定例の勉強会時に理念の復唱をし、共有し、言葉かけ・態度・記録などの実践に日々取り組んでいる。採用時には説明し意識化を図っている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の行事・祭り・掃除に参加し、事業所便りを配布している。町の文化祭に利用者のちぎり絵などを出展し、中学生の体験実習を受け入れ、来年度は高校生・短大生の実習を受け入れる。地元から野菜の差し入れがあり、挨拶を交わすなど、地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見を出し合い、2人の管理者が集約している。外部評価は運営推進会議に報告し助言を貰い、全職員で課題を話し合い、改善シートを作成して具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し利用者やサービスの実態、外部評価を報告し、意見や助言を貰っている。地震・台風時等の対応に助言を貰ったり、中学生の体験実習生増員への助言があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所連絡会・ケアマネージャー連絡会には管理者が参加し、必要時に相談し行事案内をしている。地域包括支援センターから来訪があるが、積極的な連携関係には至っていない。	○	地域包括支援センターからの来訪があるので、事業所からも相談に行く等相互の交流・提案を図り、積極的に連携を取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関して外部・内部の研修を受講し、本人・家族に利用時や来訪時、家族会で説明している。月2回の定例勉強会で再確認し、全職員が必要時に説明できる。パンフレット・報告書・研修記録が確認できた。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の事業所便りや個別の新聞、年4回の手紙を手渡しまたは郵送している。家族来訪時には利用者一人ひとりの写真ファイルを見せ、暮らしぶりや近況を詳細に報告し、行事の案内等をしている。緊急時には電話連絡をしている。月1回、家族等に個別の金銭出納簿・領収書を明示し、署名・押印を貰っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、意見箱を設置している。家族来訪時には、意見を出しやすいよう声かけに努めている。家族からの意見で個々のお寺参りをするなど利用者の意向に対応し、運営に反映させている。また第三者相談窓口については繰り返し説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員との意思の疎通を十分に図り、管理者は勤務体制に柔軟に対応するなどし、異動や離職を最小限に抑えるよう努めている。やむを得ない離職の場合は、引継ぎ期間を十分に設け、その後は馴染んだ職員がカバーしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、常に公平性を持ち性別・年齢で排除しない。配置・教育・定年などにも差別なく、個々の能力・キャリアを考慮し、誰もが安心して働ける職場環境作りを図っている。現在、幅広い年齢層の職員で支援している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者など外部研修に参加した職員が、定例勉強会で伝達研修を行い、職員の周知を図り、利用者に対する人権尊重の啓発に取り組んでいる。テキスト・研修記録等の資料が認められた。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常的に学ぶ事を推進し、研修参加表を作成、全員が参加できるような仕組みがある。行政からの研修案内等は、勤務を柔軟に調整、参加できるようにし、働きながらトレーニングしていく事を進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町の地域密着型事業所連絡会に加入し、年4回管理者が参加し、意見交換や事故防止などの勉強会に参加したり、情報交換している。職員は他事業所と交流し、相互の祭りなどへ行き来し話し合い、視点を広げている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人に見学して貰ったり、職員が自宅訪問をしている。即利用の場合は家族に來訪して貰ったり、職員の声かけを多くするなど、場に馴染めるよう、家族等と相談しながら工夫し、支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの生活歴を把握し畑仕事の得意な人には畑作りを、手先の上手な人には手芸を、料理が好きな人には調理を、裁縫が得意の人には縫い物を教わり、常に感謝の気持ちを伝えている。利用者からは、お疲れ様と労って貰うなど、共に支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り、日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。表情・行動から利用者の真意を推し測り、それとなく確認している。意思疎通の困難な利用者には、家族等から情報を得て、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見や希望を担当者が把握し、全職員へ伝え皆の気付きを取り入れたり、センター方式のアセスメントシートを活用し、一人ひとりの状況や希望に応じた個別の具体的な介護計画を作成している。本人・家族の同意の署名、押印を貰っている		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行ない、通常3ヶ月毎に、最低でも6ヶ月に1回見直ししている。利用者の状態変化時には、その都度介護計画の見直しを行い、本人・家族へ報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じて、通院や送迎などの必要な支援に柔軟に対応している。利用者が入院した際は、家族や医療機関と連携し早期退院に向けお見舞いに行くなど支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と協議して、これまでのかかりつけ医と情報提供等連携し、利用後は母体病院が主治医となっている。また、歯科・皮膚科等、他医療機関と関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の希望・意向を大切にし、重度化や終末期について、利用時や折りにふれ主治医・職員・関係者で協議を行い、重要事項説明書の看取り介護の方針に則り、本人家族へ説明している。全員が方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳やプライバシーに常に配慮し、排泄誘導時にはさり気なく小声で話し、可能な限り見守りをしている。外部・内部研修やミーティングで周知しているが、さらに職員間で気があれば話し合い改善し、意識化している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の体調や希望にそって支援し、散歩コースも利用者によって決めている。魚釣りが好きな人には一緒に近くの川で釣りをするなど、最大限利用者の希望を生活の中に取り入れた支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から後片付けまで一緒に行い、職員と利用者は同じものを同じテーブルで会話しながら食べ、食事を和やかで楽しいものになっている。利用者一人ひとりの好みに合うよう嫌いな物は代替や味付けを代える等し、毎月1日は赤飯で月代わりを知って貰うなど、工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望に対応している。入浴拒否の場合は、浴室横は庭園で眺望が良く気分転換になるなどの会話を交え、人を代え時間を代え、タイミングを図るなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意な事、出来る事を把握し、調理・掃除・野菜づくり・裁縫・手芸・金魚の餌やりなどを通し、張り合いや楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候に配慮しながら、毎日近くを散歩したりちょっとした日用品の買い物に行っている。宮参りや四季折々に花見のドライブに出かけている。個々の希望に応じて外食や洋服等の買い物や、近隣の足湯に行くなど外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に施錠はない。玄関にセンサーを設置している。外出傾向のサインを職員は見逃さないよう見守りをし連携し、一緒に歩くようにしている。散歩時に近隣の人とは挨拶を日々交わしており、顔馴染関係が出来ており、理解を求められるよう働きかけをしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成、年2回消防署の協力を得て避難・消火訓練を行なっている。夜間想定も行い、職員は熟知している。運営推進会議から地域住民へ災害時の協力を呼びかけており、区長・民生委員も協力的である。非常用食料・備品を整備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量を記録・把握している。献立は利用者の希望を取り入れ、毎回栄養士がチェックし、栄養バランス・カロリーに配慮している。利用者の状態によっては形状や食材を替え対応する。誕生日には1品付け加えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソフトなソファを程よく配置し、思い思いに団らんしたり、まどろんでいる。テーブルには花を飾り季節感を出している。壁には利用者のちぎり絵や外出時に撮った利用者の写真が貼られ、生活感がある。室内温度・テレビの音量・臭気・光への対応も適切で居心地よく過ごせる工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒やベッド、テレビ、冷蔵庫や、家族の写真・習字・絵などを飾り、その人らしく居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		

※ は、重点項目。